

伊那市こども計画（案）に対する意見と市の考え方

○意見応募期間: 令和7年2月28日~3月14日
○意見総数: 13件

資料2

項目	該当項	大項目	中項目	小項目	意見の概要	市の考え方	地 区	年 代
1	42 75	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	表中	目標値が数だけになっており、質の向上も同時に進めていただきたいです。数値目標を達成すれば良い、という作成側に立った構成になっており、市民が読んで幸せや希望を感じる構成になっていません。（本項目だけではなく、全体的に言える事です。）昨年度利用した「夏休みおいで塾」も事前説明会などフルタイムで働く親には参加が難しい点や子どもが行き渋る事などもありました。数と同時に質の向上も盛り込んでいただきたいです。	主な取り組みの令和11年度の数値については、現在の実績と目標値までの差について、K P I 値（重要業績評価目標）で現わしており、具体的な数値で目標値を表す必要があります。 また、「主な取り組み」には、代表的な取り組みを抜粋しているため、記載した以外にも子育て支援に係る事業があります。 なお、表中に「現状と課題」「施策の方向性」を記載をご参照いただきまして、一つひとつの課題解決と質の向上を図り、伊那市こども計画全体として「こどものくらし まんなかのまち いなし」を目指します。特に施策の検討、実施に当たってはアンケート等により当事者の意見を聴きながら市民の方々に希望を持っていただける施策となるよう、また、質の向上を図ることができるよう努めます。	西町地区	30代
2	42	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	I ライフステージを通した施策 1 施策1-①	「「こども基本法」の基本理念を踏まえ、こどもの権利擁護など幅広い視点に立った「こどもの権利」に関する条例の整備に向けて研究を行います」とあるが、研究にとどまるのはとても残念です。箕輪町では、既に令和6年4月に「箕輪町こども・子育て応援条例」を既に施行し、さまざまな子どもの施策が進んでいます。 映画「ゆめパのじかん」やNHK「ドキュメント72時間」でも全国的に注目された”川崎市子ども夢パーク”ができたのも、2000年に全国に先駆けて条例化し、全国のモデルになっている「川崎市の子どもの権利条例」があったからです。 その制定過程では、1999年6月に「子ども権利条例検討連絡会議」が設置され、条例の基本方針や内容についての検討が始まりました。また、子どもたち自身の意見を反映させるために「こども委員会」が設置され、子どもたちが自らの権利について学び、意見を交換し合う場が提供されました。こども委員会の活動は、条例の内容に大きな影響を与えたといえます。 提案は、以下の通り。 1. 「子どもの権利条例の制定」を具体的に計画に盛り込みこと。 2. そのために、「子ども権利条例検討連絡会議」「こども委員会」などを設置し、市民やこども自身が子どもの施策の企画・運営に関与できる仕組みを設けること。 3. 学校教育で子どもの権利を学ぶ機会をつくること。	<u>ご意見を踏まえ、「こども基本法」の基本理念を踏まえ、こどもの権利擁護など幅広い視点に立った「こどもの権利に関する条例」について研究し、整備します。」と改めます。</u> ご提案については以下のとおりです。 1. 子どもの権利に関する条例について上記のとおり改め、制定に向け取り組んで参ります。 2. ご意見を参考に当事者が施策の企画・運営等に関与できる仕組みを検討していきます。 3. こどもが権利を学ぶ機会については、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など教育活動全体を通して計画的に推進します。	御園地区	30代

伊那市こども計画（案）に対する意見と市の考え方

○意見応募期間:令和7年2月28日~3月14日
○意見総数:13件

資料2

3	43	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	I ライフステージを通した施策 2 施策2-①	子供の遊ぶ施設が無さすぎると思う。ドラッグストアとか、コンビニとかガソリンスタンドなど、同じものが多すぎてもう要らないと思います。 子供の遊ぶ施設を作って欲しい。室内。これは切実に思います。 その中でフードコートもあるとすごく良いし便利です。 伊那市も子供が多いので絶対いつも混むと思います。	子どもの遊べる施設については、アンケートなどにより利用者等の意見を尊重しながら、こどもが安全・安心に遊ぶことができる環境として整備できるよう検討していきます。	前原地区	30代
4	44	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	I ライフステージを通した施策 2 施策2-②	1、学校給食の安全を担保するため、学校給食を無農薬にしていきたいです。 2、学校給食が楽しい時間となるよう、無償にしていきたいです。 3、アレルギーなどの申請のため、毎年診断書を取る事を学校から求められています。これを1度出したら在学中有効にしていきたいです。 無償化された医療費の無駄遣いになりますし、親にとっては平日の勤務時間もしくは子供と過ごす時間を奪われることになります。	1. 地元の農産物等の地産地消、有機農産物の利用等を進めていきます。 2. 給食費の無償化については国や他市町村の状況など研究していきます。 3. アレルギーに係る診断書については毎年、お子さんが今までと違う食物に対してのアレルギー反応の有無を確認するために必要とします。アナフィラキシー症状など重篤な事故への防止策ですので、ご理解ください。	西町地区	30代
5	51	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	I ライフステージを通した施策 4 施策4-②	「実質ひとり親」にも手を差し伸べられるルールにしていきたいです。 また離婚が成立しても、収入が一定以上だと支援が少ない状況です。収入があったとしても子育ての手は一人分しかありません。 そういった点が補完される様、市の制度として充実させていただきたいです。	現在のひとり親支援の制度では、「ひとり親であること」を確認する必要があり、そのための公簿は戸籍のみとなるため、ご意見にあるような実際にはひとりで子育てしている家庭についての各ご家庭の実情や環境の変化等について現況把握は困難な状況です。 また、「離婚が成立しても～」以下のご意見に関しては、児童扶養手当の内容に該当するかと思われますが、受給者の認定要件については全国一律に決められており、毎年現況届をご提出いただき支給金額の審査をしています。 上記のことも踏まえ、伊那市こども計画では、ひとり親家庭のみならず、子育て家庭全体への支援策を講じ、充実を図っていきます。	西町地区	40代

伊那市こども計画（案）に対する意見と市の考え方

○意見応募期間:令和7年2月28日~3月14日
○意見総数:13件

資料2

6	61	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	Ⅱ ライフステージ別の施策 1 施策1-②	公立ですと、職員1人あたりの給与は一定基準がありますが、私立の場合、正規保育士1人当たりの園児数が減ると、保育の質は高くなりますが、給与も減る仕組みになっています。 私立の保育園も、公立と同じ水準の質と給与が与えられる様な仕組みにしていきたいです。 誰かの我慢で成り立つ世の中は、持続可能ではないと思います。	私立園につきまは、給与体系、福利厚生など各園ごとに保育士との雇用契約が結ばれています。また、国の公定価格が近年毎年上がっており、今後の処遇改善につながっていくものと考えています。	西町地区	40代
7	61	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	Ⅱ ライフステージ別の施策 1 施策1-②	市内にある私立保育園の常駐の看護師さんが不在です お給料を上げないと常駐看護師さんは勤務出来ない状況です 保育士さんのお給料も低いと聞きました こどもまんなか社会なのにこどもをみてくださる保育士さんのお給料が低いなんておかしすぎます 高齢者まんなかになっている現状では？ こどもまんなかになることを切に願います	保育園に限らず看護師確保は難しい問題でありますので、国や県とともに取り組んでいきます。 公立の正規職員の保育士については、人事院勧告等を踏まえた対応をしております。会計年度任用職員については、保育士の処遇改善を重点的に行っております。 私立につきましても、国の公定価格が近年毎年上がっており、今後処遇改善につながっていくものと考えています。	荒井地区	30代
8	64	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	Ⅱ ライフステージ別の施策 1 施策1-②	学童クラブの適正規模（30人以下）への改善 現在、伊那市の学童クラブは「パンク状態」で、保育の質も問題になっている。全日本学童保育連絡会の提言では、「子どもが落ち着いて安心して生活できる保育が実施可能な規模でなければならない。基本的な生活単位となる学童保育の集団の規模の上限は30人までとする。」また、指導員体制については、「開設時間中は常時複数とする。児童数20人までは指導員3人以上を配置し、21人から30人までは4人以上の配置とする。」とある。 提案は、以下の通り。 1. 学童クラブの定員を1クラス30人以下とするように調整する。なお、大規模学童については、単一施設に複数クラスを置いて保育を実施できるようにする。 2. 複数クラスを置けない場合は、学童クラブの施設数を増やし、少人数での手厚い支援ができる環境を作る。	児童数の多いクラブでは学年毎に分けるなど工夫しているところもあります。 また、支援単位ごとに過ごすことは子ども達も落ち着き、指導員の負担も軽減され则认为ますが、深刻な指導員不足などがあり、小規模での保育は厳しい状況です。 少子化の中、学童クラブの利用者は増加傾向にあり、手狭になっている施設もあります。こどもたちに安心して安全に過ごしてもらえるよう、指導員不足の課題と並行して、学校施設や公共施設の活用など、施設の確保に努めていきます。	御園地区	50代

伊那市こども計画（案）に対する意見と市の考え方

○意見応募期間:令和7年2月28日~3月14日
○意見総数:13件

資料2

9	64	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	Ⅱ ライフステージ別の施策 2 施策2-②	児童館の新設で学童クラブの負担を分散 伊那市には児童館がなく、放課後の子どもの受け皿が学童クラブに集中している。 児童館を新設することで、学童クラブに入りきらない子どもや、ゆるやかに過ごしたい子どもたちの受け皿になる。 児童館では、遊びや学びの場の提供、地域交流、子どもの自主性を育む活動などが可能である。他の自治体では、児童館があることで、学童クラブの過密状態を緩和している。 提案は、以下の通り。 1. 伊那市に児童館を新設し、放課後の居場所を多様化する。 2. 児童館と学童クラブを役割分担し、利用者ニーズを分散する。 3. 児童館の運営には、専門スタッフ（プレイリーダーなど）を配置し、子どもの主体的な遊び・学びを支援する。	こども計画においても放課後の児童の居場所づくりに取り組むこととしております。人口減少の状況も踏まえつつ、利用者の声を聞きながら必要な居場所づくりを検討していきます。ご提案についても参考にさせていただき課題の解消に取り組んで参ります。	御園地区	50代
10	67	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	Ⅱ ライフステージ別の施策 2 施策2-⑤	不登校児童生徒への支援について ・学校のあり方の現状と課題の分析がなく、どの子にも普通を求めることに無理があり、まずはそこになじめない自動的（児童達？）の居場所を学校につくらないといけない。 ・NP0との連携により支援体制の充実というが、具体的にどうするのか。居場所を利用している児童生徒について学校からの問い合わせが一部の学校に限られ、支援会議への参加依頼も少ないの学校で支援会議が定期的に開かれているかも疑問である。 ・民間フリースクールとも連携というが、民間の居場所や学びの場と中間教室が連携してして多様な居場所や学びの場をいっしょに考えていく視点が必要。 ・公設民営の居場所をつくるのが一番の連携になるのではないのでしょうか。そのための行政、当事者、支援者の組織が必要ではないか。	不登校の児童生徒の増加に伴い、子どもの行き場所がないこれまで以上に必要な状況になっているため、「子どもの居場所」を開設しているNP0等と学校が定期的に情報共有を行う機会を設けながら、実情、課題などを把握しつつ、NP0等の活動を支援していきたいと考えています。 また、自分のクラスに入りづらい児童生徒は、相談室、保健室、空き教室、図書館等で過ごすケースがあることから、学校内の中間教室や居場所づくりについてもより充実させていきます。	駒ヶ根市	60代
11	67	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	Ⅱ ライフステージ別の施策 2 施策2-⑤	不登校の「長期化」との表現がありますが、これは不登校が問題行動であると解釈されます。「長期化」を恐れているのはこどもも保護者も同様で、早期の登校を急かすだけではこどもの困難は解決しません。不登校の状態でも何の問題もないと思えるようになって初めて、無理な登校で傷ついた精神を休めることができ、十分に休息してから、次の行動に移る気力がわいてくるものと思います。 必ずしも登校がゴールではないこと、長期間不登校であっても問題はないという共通認識を持つことが必要ではないでしょうか。 不登校の予防に関しては、教員の人数を増やし、一人当たりの業務量を減らすことが最優先かと思います。 一度欠席が始まった児童生徒に関しては、無理に登校や外出を促すことはせず、自宅や居場所・フリースクールなど、本人が安心して過ごせる場所で過ごすことを優先すべきです。 こどもが外出せず保護者に焦りがある場合は、保護者が関係者（教員、相談員、同じ境遇の保護者）と対話する機会を十分に設けるのがよいと思います。保護者がクレーマーと受け取られるケースは、学校側が多忙で、十分な対話の時間を確保できていないのではないかと思います。	不登校の児童生徒の増加に伴い、子どもの行き場所がこれまで以上に必要な状況になっているため、「子どもの居場所」を開設しているNP0等と学校が定期的に情報共有を行う機会を設けながら、実情、課題などを把握しつつ、NP0等の活動を支援していきたいと考えています。 また、中間教室等では、児童生徒の社会的自立や学校復帰を目指した支援を行っています。中間教室や県で認定を受けているフリースクールへの通室等は、学校において出席扱いとなることもあり、支援を受けやすい状況にありますが、一方で、休みが長期化し、家庭で過ごす時間が長い子どもには、必要な支援を届ける機会が少なくなることが課題であるとして記載しています。 教員の配置は県でされますが、一部市費で配置したり、特別支援教育支援員や子どもと親の相談員等必要に応じて配置し、教員が児童生徒に向き合う時間を確保できるように努めています。	西町地区	50代

伊那市こども計画（案）に対する意見と市の考え方

○意見応募期間: 令和7年2月28日~3月14日
○意見総数: 13件

資料2

12		計画の基本的な方針	施策の体系と展開	Ⅱライフステージ別の施策	伊那市における、こどもの支援・育成施策に大きな可能性を感じている一人でもあります。 人生の大半を企業人として過ごしてきた経験から、一旦社会に出て経済活動の只中に入った場合、これから益々グローバルな動きや経済、情報技術知見が重要になってくると思います。 様々恵まれて早い内から感覚を得て行けるこどももいれば、特に家庭の事情（経済的、精神的）等によりポテンシャルはあるのに、埋もれてしまっているこどももいると思います。 そんなこども達にも、もっと最先端の科学や技術、語学、経済に触れるチャンスが訪れて欲しい。 そこで層別のアプローチにおいては、ライフステージ各ステージ毎に、家庭の事情（「貧困、ミドル、裕福層」や、「親の子供に対する関心有り・無し」）の視点も加味したマトリックスで、対象をもう少し細分化し、ポテンシャルあるこどもの本来の能力を発現できるような施策展開も整理、考慮いただけたらありがたく。	こども計画では、必要な支援を実施することにより、こどもを取り巻く環境による格差をなくすことを目的の一つとしています。必要な支援を検討する際には、ご提案いただいた層別のアプローチという視点を持ち、より効果的な経済的支援や学習支援などに取り組んでいきたいと考えます。 また、こどもたち自身が「学びたい」気持ちを育めるような環境づくり、学びに興味を持つことができる機会づくり等の施策を研究します。	荒井地区	60代
13	72	計画の基本的な方針	施策の体系と展開	Ⅲ子育て当事者へに支援に関する施策 1 施策1-①	さまざまな無償化や給付金といった経済施策は大変ありがたいのですが、その一方でPTA活動や地域の役員などで、実質的な労働時間を費やさなくてはならない状況があるように思います。特に近年は、地域の人口や児童数が極端に減ってきているので、各家庭への負担は大きくなるばかりです。 仕事を休んでそのような活動に協力を求められる状況の打破も、経済負担の軽減、子育てしやすい環境の整備に繋がると考えられます。具体的には、登下校の見回りや、親子レクリエーションの準備などは平日勤務への負担になっているように思われます。 また、役員などが嫌だというのが一因で、子供を作らないという話も聞きました。そういったことから、住んでいる地区の活動や、PTA環境の改善が意外と大切かと思いました。	地区の自治活動は防犯、防災、衛生環境などの状況把握や改善等を目的に、選任した役員を中心に活動をしています。役員の選出については、地域によって人口や加入家庭数の問題があり、ご負担をかけることがございます。 P T Aは各学校で組織する団体活動です。保護者と学校、保護者同士のつながりを持ち、学校関係者全体で児童の育成を行うことが目的です。行事の規模や参加範囲などについては学校ごとの特色がありますので各P T Aで検討していただくと良いかもしれません。 ご意見のとおり、社会情勢の変化や働き方も変化してきており負担軽減を図る工夫や視点も大切と考えます。「伊那市こども計画」では、地域の皆様にこども・若者の育成について自分事として捉え、ご協力していただけるような地域づくりを進めていきたいと考えているところです。	手良地区	40代